

- 5 公的年金保険は生きている限り、将来の経済状況に見合った額を受け取れること（個人の貯蓄では難しいこと）

公的年金保険は生きている限り、将来の経済状況に見合った額を受け取れること（個人の貯蓄では難しいこと）

## 1 理解し伝えるべき項目

- (1) **自分がどれくらい長生きするのか誰にもわからない。わからないことに対して自分で全てを準備することは難しい。自分で準備できないことを社会全体で支え合い備えるための制度として、公的年金保険がある。**
- (2) 医療技術の進歩などにより、平均寿命がますます延びている。長生きすることは喜ばしいことではあるが、健康寿命（日常生活に制限のない期間）と平均寿命の差は男性で約9年、女性で約12年（2018年）といわれ、病気になって入院期間が長くなったり、退院後も介護状態となってしまうことも多い。しかもこれらの数値はあくまでも平均値であり、わたくし・あなた1人1人にとってはどういう未来が待っているのかよくわからない。
- 長生きすることによって、生活費も長期間にわたってかかると高額となり、さらには、病気や介護などのリスクを考慮するとさらにお金もかかる。このような長生きリスクに対する対応が今後ますます重要になる。**
- (3) 老後に備えて貯蓄など老後資金を準備しておくことは大事だが、長生きしていく中で貯蓄は底をついてしまう可能性があり、**貯蓄だけでは幾ら備えてもずっと不安が消えない。一方、老後には終身年金である公的年金保険があるということで一定の安心感を得ることができる。**
- また、公的年金保険が、亡くなるまで受給できるということによって、現役時代に過度な貯蓄を行う必要もなくなるし、長生きして生活資金がなくなるという事態に備えることができる。
- (4) 昔と今の物価の違いについて（50年前との比較）。50年後の物価や賃金の変動は予測できない。**公的年金保険は、受給する時の経済社会の状況に見合った実質的な価値に配慮した年金を支給する。**一方、貯蓄は、将来目減りするかもしれないということがある。
- (5) 実質的な価値に配慮した年金を支給することを可能にしているのは、仕送り方式（**賦課方式**）であり、その時の現役世代の保険料がその時の高齢者の年金に充てられている。この社会全体の仕送り方式により、物価や賃金が急に上がっても、その状況に合わせた年金額を受給できる。

- 5 公的年金保険は生きている限り、将来の経済状況に見合った額を受け取れること（個人の貯蓄では難しいこと）

## 2 伝える際のポイント

### (i) 長生きリスクへの対応の必要性

誰も、自分が何歳まで生きるかわからない。日本は、医療技術の進歩などにより、平均寿命がますます延びている。平均寿命は男性約 81 歳、女性約 87 歳である。ちなみに、1980 年の平均寿命は男性 73 歳、女性 79 歳となっていて、今と比べて 8 歳も短かった。ちなみに 100 歳以上の高齢者は 1980 年には 1000 人以下（968 人）だったが、今では約 7 万人まで増加し、その大部分が女性である。

今後、人生 100 年時代がくると考えておいた方がよい。長生きすることは喜ばしいことである。そして、最期の時まで現役で働いているのが理想である。だが、現実には誰でもそのようにはいかない。健康寿命（日常生活に制限のない期間）と平均寿命の差は男性 9 年、女性 12 年（2018 年）といわれ、健康であっても、現役時代ほど働くことができずに収入が減ってしまう。また、病気になって入院したり、退院後も介護状態となってしまうことも多い。**長生きすることによって、生活費も長期間にわたってかかると高額となり、さらには、病気や介護などのリスクを考慮するとさらにお金もかかる。**このような**長生きリスクに対しての対応が今後ますます重要になる。**

### (ii) 公的年金は終身（一生涯支給）であるということ。その意義。

高齢になって働けなくなったときに、収入は 0 になる。その時、生活費はどう賄うのか。公的年金がないとしたら、自分で貯蓄など全て準備しておかなければならない。

老後に備えて貯蓄をしても、それを使い切ってしまう可能性がある。反対に、老後への不安から現役時代に過度な貯蓄をしようとする、若い時の消費を抑えてしまう可能性がある。それに対して、**公的年金保険が、終身で（亡くなるまで）支給できるということによって、現役時代に過度な貯蓄を行う必要もなくなるし、長生きして生活資金がなくなるという事態に備えることができる。**

また、**老後には終身年金である公的年金保険があるということ**で**一定の安心感も得られる**。これは自分に限ったことではない。自分の両親が公的年金を受給していれば、まずは一定の安心が得られるはずである。親などの家族が公的年金保険の受給資格がなく、国から公的年金という定期的（2 か月に 1 度）な収入が老後に得られない状況になってしまう場合を想像してみると、どうなるだろうか。誰かが親の生活を支えなければならないので、親が公的年金で得られるはずだった分まで、自分達で経済的に支えていかな

5 公的年金保険は生きている限り、将来の経済状況に見合った額を受け取れること（個人の貯蓄では難しいこと）

ければならなくなる。そういった視点からも、高齢者などの生活を社会全体で支える公的年金保険の重要性は明白である。

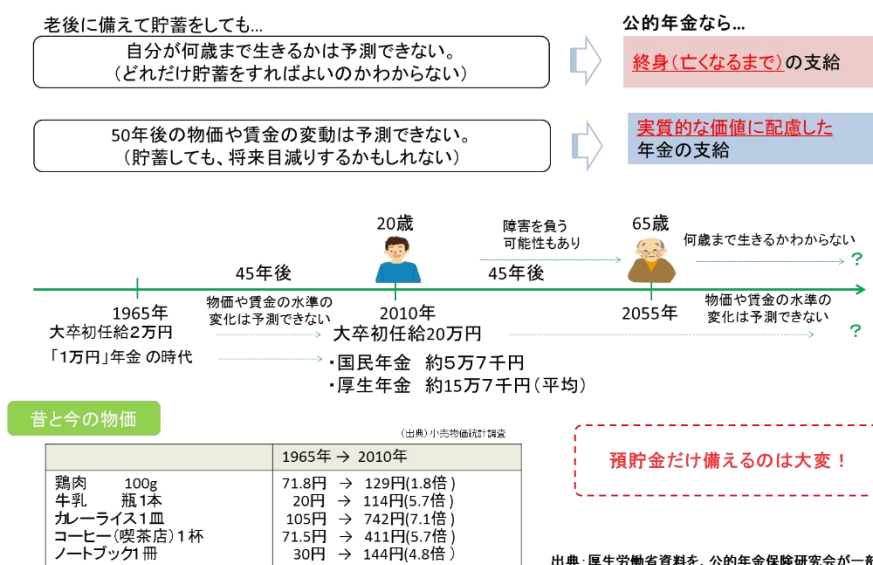
(iii) 実質的な価値に配慮した年金を支給

**数十年後、自分達が老後をむかえたときに、自分で収入を得ることができなくなっても、その時の生活水準で生活できる方がよい。公的年金は実質的な価値に配慮した年金を終身で支給する。**

数十年後の物価についても予想することは難しい。今現在 160 円のペットボトルは 50 年後も 160 円で買えるのか。年金の支給はそのくらい先の話になる。先のことを予想することはできないので、ここでは 50 年前(1965 年)の物価の状況を見てみる。例としては、カレーライスが 1 皿 105 円 (2010 年現在 742 円 (7 倍))、牛乳が 1 瓶 20 円 (現在 114 円 (6 倍))、大卒初任給は約 2 万円 (現在は約 20 万円) などが挙げられる。つまり、50 年前の物価は今の物価より低かった。今の物価は 50 年前の物価より高いということになる。

単純に言えば、50 年前は 1,000 円でカレーライスが 9 皿食べられたのに、今では 1 皿しか食べられない。つまり、1,000 円の価値が大きく下がってしまっている（目減りしてしまっている）ということである。これを貯金に置き換えると、50 年前に貯金していても、50 年後にそのお金を使う時には、物価の上昇によって貯金の価値が減ってしまう可能性がある。

実質的な価値に配慮した年金を支給



公的年金保険は生活を支えるために、その時々々の経済状況に応じた実質的な価値を保障し、物価や賃金の動向を反映した給付を行っている。現在の公的

5 公的年金保険は生きている限り、将来の経済状況に見合った額を受け取れること（個人の貯蓄では難しいこと）

年金制度は、経済の変動にある程度強い仕組みとなっている。

なお、民間の個人年金保険で約束されている将来の支給額は名目額であり、将来の実質額を保証している公的年金保険とは性質・意味が全く異なる（名目と実質の違いは1を参照）。

(iv) 仕送り方式（賦課方式）であることの意義

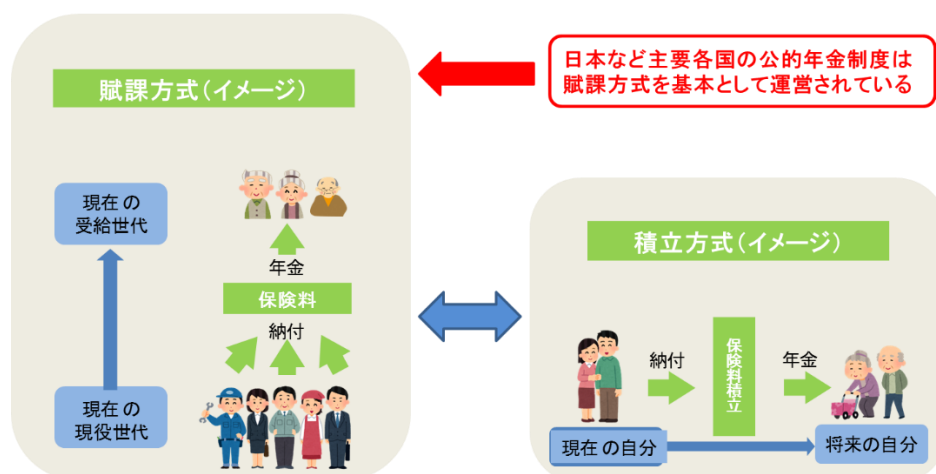
どうして公的年金保険制度は、経済の変動にある程度強い仕組みとなっているのか。それは、その時の**現役世代の保険料が高齢者の給付を支える仕送り方式（賦課方式）**をとっているからである。物価や賃金が急に上がっても、その状況に合わせた年金額に引き上げることで対応できるからである。物価が上がった場合は、物価と一緒に賃金も増えて、保険料が多く集まるようになるので、給付についてもその時の物価に合わせた年金額にすることができる。

※ ただし、今後は少子高齢化に対応した給付額の調整（マクロ経済スライド）が行われ、さらに、現役世代が将来受給するときの給付水準確保のために給与（賃金）に合わせて年金額を改定することが徹底される。

なお、**今後は、仕送り側（支え手側）の人達を増やしていくことも重要である**。女性だけでなく、高齢者であっても働けるうちはなるべく長く働くことによって、支えられる側から支える側（支え手側）にまわるということで、この**超少子高齢化社会において、公的年金保険制度の持続性と給付の充分性の両方を保てるよう取り組んでいく必要がある**。

一方、将来の自分の生活などに必要となる財源を、積み立てていく貯蓄などは、積立方式といわれる。私的年金などはこの方式による（積立方式については7を参照）。

賦課方式～社会全体の仕送り



出典：厚生労働省資料を、公的年金保険研究会が一部修正

- 5 公的年金保険は生きている限り、将来の経済状況に見合った額を受け取れること（個人の貯蓄では難しいこと）

### 3 振り返り

- (1) 公的年金は予測することができない人生のリスクに備えている。そのうちの1つが長生きリスクであるが、**公的年金保険はどのようにして長生きリスクに対応しているか。**
- (2) 貯蓄などで老後資金を準備しておくことは大事だが、**貯蓄だけでは長生きリスクへの不安は消えないのはどうしてか。**
- (3) 公的年金保険は、受給する時の経済社会の状況に見合った**実質的な価値に配慮した年金を支給できるのは何故か。**